平成21年度和歌山大学教育懇談会ご挨拶

本日は第4回教育懇談会にご参加くださり、ありがとうございます。遠方からご参加の方もいらっしゃるかと思います。皆様方にとりましても、私どもにとりましても充実した時間となることを願っております。

さて私は8月1日学長に就任いたしました。これから4年間和歌山大学長を務めます。どうぞよろしくお願いいたします。私は、もともと教育学、とくにおとなの学習・社会教育という分野の研究者でありますが、この20年は子育て支援・子育て家庭支援をテーマとして研究、実践にとりくんでまいりました。したがいましてこの間0歳からの子ども、その子どもさんをお育てになるお母さん、お父さん、あるときには祖父母の方々の苦悩に同伴してまいりました。と同時に、私自身も現在24歳になる娘と22歳の息子を育ててまいりました。

それだけに皆様方のこれまでのさまざまな困難を理解し、ほんとうにおつかれさまでした、ほんとうにごくろうさまでしたという気持ちをお伝えしたいと思います。そしてみなさま方が18年余お育てになりました本学学生の本学での学びと生活をしっかりと支援することの決意をお伝えする次第でございます。

みなさま方には、こうしてここでお会いできているわけでございますが、学長に就任しましてこころが痛みますことは、本学に希望をもって入学しながら退学、休学の手続きをせざるをえない学生・ご家族があることでございます。ある学生は、父親の給料の未払いが続いている、ある学生は母親が祖父の介護に専念し失職したので自分が収入をえて妹たちの面倒をみなければならないというのであります。今日日本の学費の高さ、また奨学資金制度の貧困はよく知られております。このたび政権交代が行われ、新政権は人間への支援を理念的には強調しておりますが、われわれ大学関係者もその実質が実現しますよう努力したいと思いますし、ご家族のみなさんにもその声を地域のすみずみで強めていただきたいと思います。

また以上の経済的支援では解決できない、こころ痛む事例もございます。大学生活を持続する精神的エネルギーを失ったという理由、自分はうまくコミュニケーション

ができない、講義で理解できないことがあっても質問できない、したがって学習についていけないなどの理由で休退学する事例もあるわけでございます。

これらの学生につきましては、休学・退学に至るまでに、教員や職員、またケースによりましてはあとに講演をします宮西ドクターなどさまざまな教職員、専門家が支援をしてきているわけでございます。

そうした実情をふまえて　本学の経営責任をもちます私といたしましては、高等教育機関としての経営の責務は、「学生の人生の支援」であると考え、このことを「学生の、子ども期から青年期に至る学習体験、生活体験等人間形成上の諸課題を踏まえた、初年次からの優れた教養教育を実現し、時代と社会への深い知性・認識と他者とともに問題解決に取り組む人間関係力を培うことを重視」するよう教員、職員に伝えております。

各学部におきましても１年生より、ひとりひとりのライフストーリー（育ちの経過）をふまえ、丁寧に学習と生活を支援する体制を整備し、支援の方法を研究実践しております。

本日ご参加のみなさま方につきましても、学生のご家族としてご心配、ご関心があることと存じます。本日は個別の懇談会を含めさまざまな場がございますので、ご心配なこと、ご関心がありますことをお出しくださいますようお願いいたします。

学生の人生の支援とは、学生自身が自らの幸福の実現にむけての意欲と努力を支援するということでございます。このことはご家族の願いでもありましょうし、そのためにご家族としてこれまで努力されてこられたと思います。本学教員、職員は、こうしたご家族の願いも受けとめ、最大の努力をご家族の皆様と手を組みながら努力する所存でございます。本日を機にこの協働の関係が、いっそうふかまることを願っております。

平成２１年１１月１４日

国立大学法人和歌山大学

学長　山　本　健　慈